

第6章 推進目標

達成状況を把握するため、推進目標を定め達成を目指します

計画の推進目標

松戸市食育推進計画は、3つの基本目標のもと10の施策の方向性について、達成状況を把握するため、15の推進目標を定め、平成25年度までに達成することを目指します。なお、推進計画の中間地点にあたる平成22年度には、市民アンケートを実施し、進捗状況を把握し目標の達成に役立てます。

・基本理念

食の大切さと郷土のすばらしさを知り、
生涯を通じて健やかに生きる。

・基本目標1

食の大切さを見直し のぞましい食習慣を身につける

☆施策の方向

- ①「もったいない」ライフの実践
- ②行事食や郷土の特産物に関する知識を学ぶ
- ③家族や友人や多世代で食を楽しむ機会を増やす
- ④料理を気軽に楽しく実践する

・推進目標

- ①食育の推進に関わるボランティアの数
- ②年間に行事食を5回以上とる市民の割合
- ③家庭で調理をする子どもの割合
- ④子どもの食育で「食を通じたコミュニケーション」が重要と考える市民の割合
- ⑤ごみ原単位の推移

・基本目標2

地域でとれる食材の魅力や食の成り立ちを学ぶ

☆施策の方向

- ①松戸産の野菜の直売情報を提供し地産地消の促進
- ②オーナー農園、市民農園など消費者と農家との交流の促進
- ③学校、保育所など給食を活用した「食に関する指導」の推進

・推進目標

- ①学校給食における松戸産野菜（代表的な冬野菜）を使用する割合
- ②農作業体験をしたことのある市民の割合
- ③地元産の食材を購入する割合

・基本目標3

選食力を養いよくかんで 心も身体も健やかになる

☆施策の方向

- ①健全な食生活に関する指針の普及
- ②ライフステージに応じた食生活の実践
- ③食の流通や安全に関する情報の活用

・推進目標

- ①食育に関心を持っている市民の割合
- ②朝食を欠食する子どもの割合
- ③食事バランスガイド等を参考に食生活を送っている市民の割合
- ④内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）を認知する市民の割合
- ⑤食品安全性に関する基礎知識を持つ市民の割合
- ⑥歯磨きを一日に2回以上する市民の割合
- ⑦食事がおいしいと感じる市民の割合

■ 推進目標

項目	対象	実績値	中間値	目標値	国
		19 年 度	22 年 度	25 年 度	18 年度
学校給食における松戸産野菜 （代表的な冬野菜）を使用す る割合	ねぎ	33%	50%	80%	23.7%
	かぶ	22%	35%	50%	
	小松菜	54%	70%	80%	
	ほうれんそう	62%	70%	80%	
食育に関心を持っている割合	20 歳以上	85%	90%	92%	69.5%
朝食を欠食する子どもの割合 ※ 1	小学 2 年生	1.2%	0.6%	0%	3.5%
	小学 5 年生	2.7%	1.3%	0%	
	中学 2 年生	10.8%	5.4%	0%	
食事バランスガイド等を参考 に食生活を送っている市民の 割合	20 歳以上	50%	65%	80%	58.8%
内臓脂肪症候群（メタボリッ ク Syndrome）を認知して いる市民の割合	20 歳以上	90%	95%	100%	77.3%
食品の安全性に関する基礎的 な知識を持っている市民の割 合	20 歳以上	51%	65%	80%	66.4%
農作業体験をしたことのある 市民の割合	20 歳以上	27%	40%	50%	—
地元産の食材を購入する割合	20 歳以上	59%	65%	80%	—

食育の推進に関わるボランティアの数	食生活改善推進員・食育ボランティア会員数等	30人	45人	60人	—
年間に行事食を5回以上とる市民の割合	20歳以上	55%	65%	80%	—
家庭で調理をする子どもの割合	小学生～高校生	51%	65%	80%	—
子どもの食育で「食を通じたコミュニケーション」が重要と考える市民の割合	20歳以上	96%	98%	100%	—
ごみ原単位の推移※2		877g	870g	866g	—
一日2回以上歯磨きをする市民の割合	20歳以上	85.6%	90%	100%	—
食事がおいしいと感じる市民の割合	20歳以上	96.9%	100%	100%	—

※1：実績値 平成17年度、中間値 平成20年度、目標値 平成23年度

※2：一人一日あたり市のごみ処理に出されたごみの量。年間総ごみ量を10月1日現在の人口で除し一日あたりに換算したもの。（平成19年度実績値は、平成18年度実績値）

